

学校推薦型選抜 [基礎適性検査]

1 出題形式

論理的文章を題材にした総合問題 2 題によって構成されています。2025 年度は、坐など日本の身体技法に関する形式を話題にした文章(大問Ⅰ、約 2600 字)と、社会におけるルールの意義をテーマにした文章(大問Ⅱ、約 1900 字)が出題されました。解答は全問記述式で、記述問題と記号選択問題があります。記述問題は漢字の読み書きのほか、字数制限のある読解問題が出題され、記号選択問題についてはすべて、4 つの選択肢から正解を 1 つ選ぶ形式となっています。なお、設問数は各大問 8 題の合計 16 題、解答数は大問Ⅰが 14 個、大問Ⅱが 13 個の合計 27 個でした。

2 出題傾向

大問Ⅰ・大問Ⅱで題材とされている文章は社会科学・自然科学・人文科学と多岐にわたりますが、大学入試としては文字数も比較的少なく、内容も把握しやすいものとなっています。設問については、知識問題として漢字問題や語句の意味を問う問題が出題されています。また、問題文の理解を問う問題として、接続語や重要語の空欄補充問題、傍線部の意味内容や理由を問う問題、内容合致問題などが出題されています。設問で問われている内容自体はそれほど難しいものではありませんが、字数制限内でまとめなければならない記述問題が合計 4 題出題されているため、それに手間取ると思わぬ失点をしてしまうことになります。

3 受験対策

(1) 硬質の文章を読み解く読解力を養う

出題傾向で述べたように、比較的短い論説文・評論文をもとに総合的な読解力を問うという出題となっています。日頃から硬質な文章に読み慣れておきましょう。大学入試で論説文・評論文が出題されるのは、そうした文章を読み取る力が必要となるからです。大学入学後のことも踏まえて読書の幅を広げておくようにしましょう。また、問題集を用いての問題演習も国語の力を伸ばす上で必須となります。問題文の内容理解に重点を置く、根拠を見つけて解答を導き出す、問題を解きっぱなしにせず必ず復習する、などの点に注意して問題演習に取り組んでください。

(2) 語彙力・漢字力の充実に努める

文章を読み取る基礎となるのが語彙力です。この点に不安のある人はその強化に努めることが必要になります。具体的にはこれまで使ってきた教材を用い、意味のはっきりしない言葉や、書けない熟語について確認していくとよいでしょう。また毎日の学習に漢字練習を必ず組み入れることも大切です。特に漢字問題に多く配点されているわけではありませんが、記述式のため一点一画を正確に書くことが求められます。また、漢字問題は準備しておけば確実に得点できる分野であり、これをクリアすることで他の設問にも落ち着いて取り組めるようになるはずです。

(3) 記述問題対策は必ず行う

特徴の一つに、解答方式を記述式とし、かつ字数制限のある記述問題を複数出題していることが挙げられます。私立大学全般ではマークセンス方式が主流となり、記述式の設問に取り組むことが少なくなっているだけに、記述問題対策はしっかり行っておきましょう。具体的には記述問題を掲載した問題集を用いて解答を試み、正答と比較検討することが基本となりますが、自分自身で解答の正誤を判断するのが難しい場合は、学校の先生や塾の講師などに見てもらおうとよいでしょう。実際に解答をまとめる練習を多く積むことが、記述に強くなる一番の方法となります。

一般選抜 [国語]

1 出題形式

各日程ともに、問題用紙2ページ程度(約2000～2500字)の文章を題材にした総合問題が2題出題されます。解答は全問記述式で、大問ごとの小問数は8問程度です。設問は、漢字の読み書き、慣用表現・語句の理解を問う問題、接続語や重要語の空欄補充問題、傍線部の意味や理由を問う問題、内容合致問題などがバランスよく出題されます。○字以上○字以内といった字数制限のある読解問題が大問ごとに2題程度出題される点、各大問の最後に文章の内容に合致するものを選択肢の中から一つ選ぶ形式の内容合致問題が出題される点に注意しましょう。

2 出題傾向

出題される文章は人文科学系の分野や社会科学系の分野、現代の科学技術を話題にしたもので、さまざまな分野にわたっていますが、文章量は多くなく、内容も比較的把握しやすいものとなっています。設問についても難問はなく、漢字力・語彙力といった基礎から、文脈把握力・内容把握力など受験者の国語力を、総合的に見ようとする出題になっています。どの日程のどの出題をとっても、取り上げられている文章に違いこそあれ、出題形式・内容に大きな差はないので実際に何題か解いてみると、どのような力を大学が求めているかがわかるでしょう。

3 受験対策

(1) 合格に向けた長期計画を立て、それを日々の学習に落とし込もう

受験勉強は長い期間続くことになります。合格に向けてどのように歩みを進めていくか、年間の学習計画を立てましょう。その際にまず重要となるのは、現在の力を把握し、合格に向けてどのようなところを伸ばしていけばよいかを考えた上で学習計画をしっかりと立てることです。たとえば、現在の力で解ききれない問題を入試までにどうすればよいかを考え、それを「一日に2題の読解問題を解く」などといった毎日の学習計画に落とし込みましょう。地道に学習を続け、日々の課題を確実にこなしていくことが求められます。

(2) 日頃から硬質な文章に慣れ、読解力を鍛える

出題される文章の難度はそれほど高くはありませんが、大学入試にふさわしい論理的な文章が出題されます。新聞のコラムや社説など、日々硬質な文章を読むようにするとよいでしょう。

また、そのような文章を多く集めた問題集で問題演習を行うことも、文章を読む力、問題を解く力を鍛えるために有効です。試験と違い、読解力を鍛えるための問題演習ですから、焦って解く必要はありません。まずは問題文の内容の理解を第一に、じっくりと本文に向かい合い、設問に対しては、自分自身納得のいく答えを追求してみましょう。日々学習を続けることが、国語の力を伸ばす上で最も大切になります。

(3) 記述形式特有の落とし穴に気をつけよう

漢字問題では、日常よく使われる語が正確に書けるかどうかという観点から出題されており、特別難度の高い問題が出されるわけではありません。しかし、記述式の解答形式のため、だいたいの字形がわかるというだけでは得点につながりません。例えば漢字の部首や点画の書き方など、細かい点にも日頃から注意して学習を進めることが大切です。またそれは、漢字問題だけにとどまりません。字数制限のある記述問題に取り組む際には、どのような方向の解答を作成するか、どのような内容を盛り込むかを意識しながら、正確な表記で解答するという点にも注意を払って学習を進めていきましょう。

一般選抜 [英語]

1 出題形式

各日程ともに、Ⅰ 整序問題、Ⅱ 英文法語法・語彙問題、Ⅲ 論説文＋対話文、という3題構成です。Ⅰは、記号ではなく英文を書かせる形式で、Ⅱは選択問題で選択肢は全て4つで統一されています。Ⅲは2部構成で、前半が300～400語程度の論説文で、2題の選択式問題が出題されています。後半は、前半の論説文の話題に関する350～500語程度の対話文で、4題の選択式問題が出題され、最後に、対話文中の話者が発する質問を一つ抜き出し、それに対してどのように答えるか、という形式の自由英作文が1題出題されています。自由英作文では50語程度で自分の考えをまとめる能力が要求されます。

2 出題傾向

Ⅰ・Ⅱは、ともに、「論理表現」や「コミュニケーション英語」の教科書や参考書に掲載されているレベルの文や文法事項などが分野に偏りなく出題されています。ほとんどが基礎的な知識を問うものとなっています。Ⅲの前半の論説文は、2024年度には「地球温暖化」、「文化の差異」、「人類の宇宙への進出」、が、2025年度には「水資源」、「健康と睡眠」「海洋生物（タコ）の生態」が出題されており、理系・文系を問わず、かなり専門的な題材が幅広く選ばれています。そのため、後半の対話文の内容も、論説文と同様に難しく、長さも350語を超えるため、読み進めるうちに、論点を見失う可能性も高くなっています。

3 受験対策

(1) 英文法・語法・語彙は、基礎をしっかりと身に付けよう

ふだんから、「論理表現」や「コミュニケーション英語」の教科書や参考書にある例文を学習しましょう。Ⅰの整序問題は、英文を書く形式なので、問題演習の際には、記号ではなく、丁寧

な字で速く正確に英文を書く練習をしましょう。Ⅰ・Ⅱともに、問題のレベルは基礎的なので、英文法・語法・語彙を扱った市販の問題集（1000～1500題程度収録のもの）を学習して速く解答できるようになり、Ⅰ・Ⅱを速く正確に解いて難度の高いⅢに費やす時間を確保するようにしましょう。基礎的な英文法・語法・語彙の知識があれば、Ⅲの最後に出題される自由英作文についても、自分に可能な範囲での解答が可能になります。

（２） 長文読解は、内容の難しさにとまどわないようにしましょう

Ⅲの前半の論説文は、難しいものが多く、特に受験生個人が知らない話題が出題されると、内容を把握しにくく全文を読み切るのに時間がかかる可能性があります。しかし、一語一句を理解できない時でも、設問の選択肢が内容理解のヒントになります。また、後半の対話文も前半の論説文の内容を把握するヒントになることがあります。前半の論説文では、まず全体に目を通し、設問の選択肢をヒントにしながら設問に解答し、自信がない設問については、さらに後半の対話文をヒントに考えるようにしましょう。なお、このような形式、レベルの問題は他にあまり例が見られないので、過去問での演習が有効となります。

（３） 自由英作文は、50語程度で自分の考えを述べられるようにしましょう

2024年度は「よい地球市民(global citizen)になるために何をしているか」、「他の惑星に住むことを考えたことがあるか」、2025年度は「水を節約するために何を提案するか」、「タコのような野生の海洋生物を捕獲して食べ続けるべきか」などの質問に答える問題が出題されました。質問はWhat～？の形で意見をきくタイプとDo you～？の形で意見をきくタイプの2つに大別できます。前者のタイプの質問であれば、I thinkなどで書き出し、後者のタイプの質問であればyesやnoで返答してから考えを書き出すようにしましょう。過去問での練習の他、英検準2級の「ライティング」なども50語程度の英語で自分の考えを書く良い練習となるので、うまく活用しましょう。また、難度の高い設問だからと言って、難度の高い語彙等を使わなければならないということではありません。自分の英文法・語法・語彙の知識に可能な範囲で、たとえ50語に達しないとしても、自分なりの意見を英語で表現できるようにしましょう。

一般選抜 [数学]

1 出題形式

全日程において、出題範囲は数学Ⅰ・A、試験時間は60分です。解答形式は記述式で、出題数は大問が5題です。大問Ⅰでは独立した小問が2問あり、1番目の小問の中に5個程度の問いが用意されています。2番目の小問には2問程度の問いが用意されています。大問Ⅱ～Ⅳは、それぞれ一つの分野について、6～9個程度の問いで構成されています。その中でも、2025年度入学生向けの入試から大問Ⅲは対話形式の問題となりました。大問Ⅴは、数学用語・概念を説明する文章記述の問題です。出題形式や問題のボリュームなどは前年とほとんど変わっていません。いくつかの問題では、選択式の設問もみられます。

2 出題傾向

全日程で、大問Ⅰは「場合の数・確率」と「データの分析」から問題が出されています。大問Ⅱは「2次関数」、大問Ⅲは「最大公約数・最小公倍数」や「整数の割り算」「記数法」などから問題が出されています。大問Ⅳは「図形と計量」から問題が出されています。大問Ⅴは「集合と命題」から問題が出されています。出題分野・傾向も前年とほぼ同じですが、出題範囲である数学Ⅰ・Aから出来るだけ偏りがないように出題されています。難問や特殊な解法を必要とする出題はなく、基本的・典型的問題を中心として、教科書の内容を理解し、基本的公式が使いこなせるかを確認するための問題で構成されています。日頃の授業への取り組み姿勢や演習量が点数に反映されやすい問題です。

3 受験対策

(1) 数学Ⅰ・Aを偏りなく学習し、基礎学力の充実を行いましょう

毎年、全日程で数学Ⅰ・Aの各分野からまんべんなく出題されています。したがって、苦手分野を作らないように、常日頃から特定の分野だけに偏らない学習が望まれます。学校の授業を大切に、教科書・参考書の例題や練習問題を通して授業内容を十分に理解しましょう。その上で、教科書の節末問題や基本問題集での基礎学力の定着と向上に努めましょう。本学は数学用語の意味・解説が記述問題として出題されています。教科書の問題を解くだけでなく、用語解説までよく読み、問題演習で確認するなどの習慣をつけましょう。

(2) 発展問題ではなく、基本問題を中心に解こう

本学の問題は基礎学力の確認を行うべく、基本的・典型的な問題を中心に出版されています。しかし、公式を丸暗記しただけで解けるような問題ではありません。教科書や参考書の例題を丁寧に解き、各分野の典型的な問題を通して基礎学力の確認を行って下さい。間違ったり、理解が不十分な箇所は、しっかりと見直し、地盤を固めることが大切です。

(3) すべての日程の過去問題を必ず解いておこう

本学の問題は毎年、入試日程にかかわらず、出題分野、問題の配列、難易度、解答形式などが似通っています。したがって、自分の受験する日程の過去問題だけではなく、それ以外の日程の過去問題も、本番と同じように60分間で解いてみましょう。出題形式、難易度などが実感でき、適切な時間配分を見極めることができます。

(4) 2025年度からの変更点について

2025年度入学生向けの入試から「生活の一部を題材とした読解力や活用力を見る問題」を導入しています。また、共通テスト同様「具体的な実社会での設定に対して、数学を適用して解釈する問題」であったり「複数の登場人物の会話から、その人物の考えを踏まえて解答する問題」などが出題されています。

一般選抜 [生物]

1 出題形式

すべての日程で大問数は4題で、それぞれの大問は2～7つの小問で構成され、解答数は25

～40 程度です。問題には記述式と記号選択式があり、記述式問題には一部論述問題も含まれています（2024 年度 A 日程・Ⅱの問 2）が、指定の文字数は 15 字以内で多くはありません。また、計算問題も出題されています（2024 年度 A 日程・Ⅳの問 3 および問 4）。

2 出題傾向

2024 および 2025 年度は、生物基礎の「生物の特徴（生物と遺伝子）」および「ヒトの体の調節（生物の体内環境の維持）」、生物の「生命現象と物質」および「生物の環境応答」の項目から出題されています。両年度での生物基礎と生物からの出題はおよそ半分ずつです。基礎的な問題は、教科書の語句や数値を問うといったレベルですが、一部難易度の高い問題も出題されています（2024 年度の A 日程・Ⅳ）。

3 受験対策

（1） 生物基礎と生物の出題範囲を確認して学習を進めよう

出題範囲は生物基礎と生物に亘っています。生物基礎と生物の全範囲の理解度を高めることはもちろん大切ですが、出題傾向を確認してから特に力を入れる単元を決めると学習しやすいでしょう。例えば、生物基礎では「内分泌系と神経系」や「免疫」、生物では眼などの「受容器」や筋肉などの「効果器」に関する内容から取り掛かるのがよいと思われます。まずは教科書の内容を確認し、不明点がないかどうかを確認していきましょう。またそのとき、高校や塾・予備校の授業で作成したノートがあれば、学習の助けになるでしょう。

（2） 教科書・ノートに加えて問題集を活用していこう

教科書やノートの内容が理解できたら、問題集に取り組んで演習を行いましょう。入試問題の難易度はさまざまですが、合否に大きく影響するのは基本的な問題です。手元の問題集の「例題」「基本」といった項目にまとめられている問題を解けるようになることを優先しましょう。「血糖濃度を低下させるホルモンの名称→インスリン（2024 年度 A 日程・Ⅰの問 1）」といったレベルの問題を、ミスすることなく完璧に得点できるようになるまで、繰り返し演習するとよいでしょう。覚えきれない場合は、復習の回数や量を増やすだけでなく、学習してから復習するまでの時間を短くするというのも有効になります。

（3） 過去の入試問題の演習は本番と同じ条件で

教科書・ノートと問題集で出題範囲をすべて学習することができたら、過去の入試問題に取り組んでみましょう。このとき重要なのは、実際の試験と同じ時間・同じ状況（手元の資料などで調べたりできない状態）で取り組むことです。最初は解けない問題が多く、焦りを感じるかもしれませんが、本番での時間配分の練習だと思ってください。難易度の高い問題に時間を浪費するよりは、問題集で見たことのあるような、基本的な問題をすべて正解できるように時間を使った方が、合格に近付くことができるでしょう。

1 出題形式

デッサンまたはイラストレーション・マンガのどちらかを選択します。

デッサン：身近にある野菜、果物などの自然物、缶、瓶、箱などの工業製品を3～4点組み合わせて描きます。鉛筆（HB～4B程度）の特徴を理解して、陰影や量感、質感などを表現します。評価については、総合的な表現力を見て評価します。

イラストレーション・マンガ：まず与えられたテーマをよく理解してください。次にテーマに基づいて想像を膨らませ、どう表現すれば、より良くテーマが伝わるかを考え、人間の動きの表現に留意しながら、イラストレーションやマンガで表現します。

2 出題傾向・受験対策

デッサン：主に以下2点の基本的な描写力を身に付けておいてください。

- ・用意されたモチーフ全体がバランスよく画用紙に納められる構図（構成）を取る力。
- ・立体感を表現する力（レンガなど立方体、直方体のパースとジュースの缶など円柱状のモチーフの楕円の理解）。

イラストレーション・マンガ：テーマは、人間の様々な行為や時事問題から出題される場合が多く、また、飛んだり跳ねたりと、人間の体の様々な動きや姿を描くことを求める場合が多いです。

日頃から時事問題に注目し、もし、そのことをテーマに出されたら、どんな風に表現するかを考えてください。また、人間の様々な動きを、全身（上半身ではなく）で描く練習をしてください。